

「2012 山村留学全国ミーティング」のご報告

2012/5/16(水) ~ 17(木) 国立オリンピック記念青少年総合センター

この度、山村留学関係者の情報共有や、指導スキルの向上、ネットワーク構築を図るため、「2012 山村留学全国ミーティング」を、子どもゆめ基金の助成を受けて実施しました。

当日は30名を超える参加者にお集り頂き、事例発表や講演を通して、今後の山村留学のあり方や課題と現状を話し合うことができ、有意義な時間とすることができました。



事例発表1 「かじかの里学園の取り組み」

群馬県上野村は20年目を迎える留学地。これまで279名の留学生が、学園を巣立ちました。

学園の様子や、村や地域との連携、課題などを具体的に発表してもらいました。

【講師】
かじかの里学園長
村上和嗣氏



<http://www.atcfactory.com/kajika/>

事例発表2 「北海道鹿追町瓜幕の取り組み」

北海道鹿追町瓜幕地区は、道内で最も歴史のある留学地。中高一貫校の特色を活かしながら、寮・里親・家族と様々な形態で受入れを実施しています。

【講師】
瓜幕自然体験留学制度
推進連絡協議会
会長 秋田芳通氏



<http://shikaoi-study.jp/>

講演 「教育行政からみた山村留学の意義 ～子ども達に豊かな体験を～」

長野県は山村留学の実績の多い地域。そこで中学校長として留学生と接してきた方に、学校教育における山村留学の効果や、山村留学生とのエピソード、長野県内での取り組みをお話頂きました。

【講師】
南信教育事務所
生涯学習課
唐澤久樹氏



【雨ﾌﾟﾛ用ミニ実習】 つるを使った“かご”作り



山村留学に限らず、体験活動は天気にも左右されることの多い分野。

そこで重要になってくるのが雨ﾌﾟﾛ。室内でできるゲームなどもありますが、今回は、自然の素材を使ったクラフトとして、“かご”作りの実習を行いました。

講演 「人と交わる ～人との接し方～」



山村留学の運営には、地域住民や学校関係者、指導者、教育委員会など様々な人が関わっています。そうした方々の連携体制を強化し、相互に信頼関係を高めていくことは、子ども達にとってより良い環境を作ることに繋がっていきます。

また、最近では留学する子どもも色々なパーソナリティを持っており、一人一人に適切に接していくことが必要であると同時に、その保護者に対しても、信頼を勝ち得るような、適切な対応が求められています。

そこで、個人や組織のコミュニケーション能力の向上を狙いとして、基本的な人との接し方やクレーム対応などについて研修を行いました。

【講師】
三井住友海上火災保険株式会社
営業推進部法人開発室 竹内靖人氏



H24/11 下旬には、長野県売木村にて、「長期自然体験活動指導者研修会」を開催予定です。詳細は決まり次第皆様にお知らせいたします。

ぜひご参加下さい！

主催：特定非営利活動法人 全国山村留学協会

〒180-0006 東京都武蔵野市中町 1-6-7-5F

<http://www.sanryukyo.net>

tel:0422-56-0595/fax:0422-56-0351/info@sanryukyo.net